安芸の宮島「厳島神社の大鳥居」

慶應義塾大学　広島通信三田会報

みやじま

第６０号

２０２１年3月

慶應義塾大学　広島通信三田会

今年も冬から春へ、季節が変わってきました。野山の樹々も冬眠から覚め、芽を出し、花を咲かせ、春を謳歌します。人間も新型コロナウイルスで長い巣ごもり生活から解放され外に出たいものです。

初めて経験する新型コロナウイルスから何を学び、又、暮らしや社会を変えたか、お聞きしました。ウイルス菌は生き物に寄生し、絶滅しない。ワクチンもできましたが、その性質を知り、うまく付き合う（ウイズコロナ）こと、そして新しい早く生活様式を定着することが必要でしょう。

【 目 次 】

・全国通信三田会役員会報告書 ・・・・・・・・ 瀬戸田 誠（全国通信三田会地域連絡部長） P. 2
・コロナが教えてくれたこと ・・・・・・・・・・ 益田 由起子（令和 2 年法学部卒） P. 3 ～ 4
・コロナが教えてくれたこと、学んだこと
～ 人生は戦いなのか(パート II）～ ・・・ 河村 保（昭和 52 年経済学部卒） P.5
・新型コロナウイルス問題で学んだこと ・・・・ 迫田 勲（昭和 43 年法学部卒） P.6
・コロナ禍による社会的変化と生活変化 ・・・・ 瀬戸田 誠（平成元年経済学部卒） P.7
・知性とは何か ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 楢原 宏明（平成 28 年文学部卒） P.8
・仏教の教え ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 迫田 勲（昭和 43 年法学部卒） P. 9～12
・[特別寄稿] 第 2 の故郷、広島を想う ・・・・ 明石 旭弘(憲彦)（昭和 33 経済学部卒） P.13～14
・編集後記・・ 裏表紙

全国通信三田会役員会　報告書

全国通信三田会地域連絡部部長
（広島通信三田会副会長）瀬戸田　誠

1，各地域活動報告&行事予定

① 札幌通信三田会～会報『時計台』NO１03　発行

②「札幌通信三田会創立５０周年記念式典」は、３月の役員会にて決定する。
※懇親会は無理でも、式典は開催したい。（７月予定）

③ 関西地区～　慶友三田会、和歌山通信三田会は、開催予定行事全て中止、会報の発行のみ実施。
神戸慶友会、兵庫通信三田会は、オンラインによる科目試験・卒論レクチャー。

④ 中国地区～　２０２０年９月卒業生へのアプローチ中四国４名共返信あり。関心ありと感じた。
（地元三田会との連絡網構築中）

⑤ 四国地区～　第２５回中四国合同通信三田会４月末開催予定は、コロナ収束状況を見て判断する。

2，ユニコン賞の推薦今回２０２１年３月の卒業式に２回目の卒業の栄冠を獲得した中国地区山口通信三田会（山口慶友会）の小河和子君を山口通信三田会由元会長と共にユニコン賞に推薦した。既に小河君は地域連絡副部長として活動されており、次期山口通信三田会の会長も嘱望されている。休眠中の慶友会との橋渡しの役目も担っており期待している。

3，九州地域

① コロナ禍により当面活動は各地域とも休止中。終息後昨年の行事計画に基づき、活動を開始する。

② 秋の九州合同は福岡通信三田会が担当幹事。佐賀県の通信三田会再生も終息後開始する。

③ 沖縄は、長濱会長の出席により割愛する。

コロナが教えてくれたこと

益田由起子　（令和２年（2020 年）法学部卒）

新型コロナウイルスの感染が世界中に蔓延してからすでに 1 年が経過しました。その間、ソーシャルディスタンス、マスク着用、Web 会議、自粛生活…等々、新しい生活様式を取り入れることを余儀なくされました。新型コロナウイルスの感染が完全に収束したとしても、すでに経験してしまったことを何もなかったかのように元に戻すことはできません。

実際私の場合、コロナ禍と並行する形で母の介護が始まり、細心の注意を払うことが求められました。極力不用意な外出は避け、食事の献立はできるだけ免疫力が高まるものを考え、かかりつけ医では母の代理で薬を受け取り通院の回数を減らし…等々、でき得る限りのことをしてきました。おかげで、病後減少していた母の体重は２キロ増え、家の周りを散歩することができるまでに回復し、90 代の治癒力に感心しているところです。

コロナ禍で人とのコミュニケーションの場や時間が制限されるようになった今（私の場合、介護という状況が重なりさらに制限されていますが)、強く実感するのは、従来の価値観や手段に拘っていては前向きに明るい気持ちで生きられないだろうということです。ワクチン接種が進めば社会は以前のような状況に戻るだろうとか、医療や科学が何れ全てを解決してくれるだろうとか、安易に考えてはならないと思うのです。コロナのような未曾有の事態では、自分にとって都合の悪い情報も含めてキャッチするように努め、淡々と現状を受け止め、自分にできる可能な限りの工夫をすることが大事だと思います。

コロナ禍での生活の工夫として、私は次のようなことを試しています。

☆　外食をしなくなったことで、家での‘おうちごはん’を充実させ、月・水・金は和食、火は洋食、土は多国籍のメニューでお酒を楽しんでいます。木・日はノンアルコールデイ。ワインに合わせてガレットやアヒージョ、キッシュにも挑戦。料理のレパートリーが増えるほどに酒代はかかりますが…トホホ。

☆　感染リスク低減のために始めたスマホ決済ですが、今では買い物で現金を使うことはほぼなしといったところ。貯まったポイントは、老後資金の足しにと、ネット証券を通して長期・分散・積立。ポイント投資できるのは最大の魅力。少額を楽しみながら…。テレビのＣＭ‘○○ナビ’のようにはいきませんが…。

☆　不動産賃貸業で青色申告していますが（申告者は夫で事務は私)、今年初めて e-Tax に挑戦。３密が避けられ、控除額も 10 万円増でメリット大。不動産の知識を獲得するため、資格試験にもいずれ挑戦したいと思っています。

☆　健康維持のため、毎日、母宅との往来をウォーキングで１万歩。わが家はマンションで庭がないので、通りすがりのお庭を拝見しながら、季節の変化を五感で楽しんでいます。

あれこれ未来の不安に悩むより、今をよりよく生きるために、今という時代の風を読みながら情報を取り入れ、五感をいっぱいに働かせ、今できることにベストを尽くし挑戦することが、結局は未来を描くことになるだろうと信じて今日も私は生活を楽しむことに励んでおります。

カミュの小説『ペスト』は、世の中の不条理と人間の不条理を認識してしまった人々が疫病に対してどう生きるかを問うた小説ですが、あれから、地球上では幾多の不条理が起きてきました。その中で、人びとは多くのことを学んできたはずです。世界は今また、コロナの感染において、人間の生き方や行動のあり方を探求することが試されているような気がしてなりません。

空を見上げたら、サクランボの花が咲いていました。この日、広島は平年よりも１６日早く、全国でトップの「開花宣言」。気象庁が観測を始めた１９５３年以降、県内では最も早く、全国でも歴代２番目。　　（by 小林 ）

コロナが教えてくれたこと、学んだこと　～ 人生は戦いなのか(パートⅡ) ～

河村　保　（昭和５２年経済学部卒）

人生もあと少しになって、コロナとの戦いの中で考えさせられた。恐ろしい世の中だ。スポーツのように、単に競争しているわけではない。戦いなので、道理・義理・人情もない。

政治の社会では、常時戦場と言われている。まさにそうなのだろう。

今日話題の河井夫妻の選挙違反は、「戦い」への意識が中途半端であったからではないか。私は、十数年前に、広島慶応倶楽部の総会は勿論、月例会にも参加して、河井克行君と話したことがある。その時、安佐南区に事業所を持って居られた先輩が、後援会を作られたので入会した。まだ結婚前で、国会議員への選挙事務所開きにも応援に行ったことがある。同時通訳も出来る程の英語力で、ゆくゆくは外務大臣を希望されていた。印象は、気の優しい坊ちゃんタイプで、短刀(ドス)(現金)を利かして政治を動かして行こうとまでの、悪人(ワル)ではなかった。残念ながらご結婚後は縁遠くなった。かたわらに有能な秘書を置かれていなかったのが悔やまれる。

余談だが、かつての参議院議員故永野厳雄さんの秘書をされた、迫田広島通信三田会長のことを思い出す。永野議員が他界された後も菩提寺に墓参され、合掌されていた姿に畏敬の念を持った。

政治は、一面では、利益獲得運動だ。沢山のしがらみが形成される。だからこそ、適時に政権が交代すべきだ。政治的な立場を鮮明にすると、早速深夜に無言電話が掛かってくる。思想信条等は洗い浚い調べ上げられ攻撃される。一方で、政治・宗教の団結は強固で、利益を獲得していく。

私は、人々の幸せを実現させる政策を夢見て、『現代経済体制の収斂(しゅうれん)に関する考察』を卒論とした。当時、ソビエト連邦は健在で、社会主義も一時は、国民総所得の伸びも、西欧・自由主義国に劣らないものがあった。経済学はマル経と近経と二分していた。有名な大学等で、マルクス経済学の研究が進んでいた。私は豊かな社会を創る設計図を見いだせなかった。「公的部分と私的部分の最適な割合になる」が、結論だった。その後ソビエト連邦が崩壊して、社会主義(マル経)はダメなものと決めつけられた。各大学等の教授たちは悪者にされ、ご自身も生気を無くし、全く力を失って行った。

もう一つは、倫理学からの豊かな社会の構築がある。慶應の夏季スクーリングで、大谷 愛人(ひでひと) 教授の講義を受けた友人によると、通信学生へ思いを寄せた素晴らしい講義だったと聞く。 『倫理学講義(勁草書房)』がある。ぎっちりと文章の詰まった難解な本であるが、哲学的に人間の倫理から、豊かな社会が構築されている。

現実社会には、一般社団法人「実践倫理宏正会」がある。政治・宗教の団体ではない（大谷教授とは無関係)。俗称を『朝起き会』と言って、毎朝５時から、集会所へ集まって、『朝の誓い』を唱和し、倫理ある生活を誓い、語りあっている。私も入会したが、体調不良で休んでいる。

人間としての倫理を、より多くの人と誓い合って社会を生きていく方法が力を持つならば、「戦いの世の中」に対抗して生きていけるだろうか？

新型コロナウイルス問題で学んだこと

迫田　勲（昭和 43 年法学部卒）

一昨年末中国で発生したと云われる新型コロナウイルス（以下、コロナと略す）は瞬く間に世界中に広がり、我が国では４３万人余が感染（２月末現在）している、という。人や動植物が生きていく環境が整っている地球は、それに寄生するウイルスにとって誠に都合がいい環境なのであろう。変異し生き延びる。このようなことから今回のウイルス問題で学んだ

第１点は、ウイルス絶滅しない、常に私達の身の周りにいる、と云う認識を持つことである。
そのため、この正体を知り仲良く(?) 付き合う with コロナである。
コロナは人との接触や飛沫で感染することから３密を避け、手洗いやうがいを徹底するとともに、体に抵抗力をつけることである。大切なことはそれを「習慣化」、つまり「新しい生活様式を確立する」ことである。

第２点は、大都市に集中する人口を地方に分散することである。
コロナは人との接触や飛沫で感染することから人口が多く、人の往来が激しい大都市に感染者数が多く出ている。これを証明するように日本の感染者数は東京都が全体の約２０％、首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）が約４７％、半分近くを占めている。大阪府と兵庫県は約１５・４％、愛知県は約６・２％、福岡県は約４・１％、これらの大都市で全体の約７４％、４分の３を占める。（２月１日の新聞記事により作成）

戦後まで一次産業に依存していた我が国経済は、昭和３０年代以降、工業、商業化へ転換、農村から都市へ、日本列島民族の大移動が起こった。上野駅は東北地方から若者が集団で就職する終着駅として歌にもなり世相を反映した。あれから６０年ばかり経過、今や子や孫たちはそのままそこに住み付き、都市住民となった。人口の東京一極集中によるリスク、弊害とセットで地方の過疎化、疲弊が政治問題となり地方創生が叫ばれて久しい。人口の少ない地方の小都市や農村部（田舎）は人口の高齢化、一人暮らし世帯と農業の担い手の高齢化により、空き家と耕作放棄地が年々増え、見るに忍びない無残な姿になっている。これは全国的な姿であるが、私が住む田舎はその象徴的なようで虚しさを感じている。

大都市ではわずかな土地が何億円、オクションと云われているが、我が地区は 100 坪程度の敷地に古民家（母屋、納屋、倉）が１００万円～２００万円程度、更に希望すれば農地や山林もある。中には無償譲渡もあった。移住者は、多少の不便さを我慢すれば、豊かな自然の中で野菜や花づくりに時間を忘れるくらい居心地がいい、コロナに恐怖を感じることもない、と好評である。神が作ったと云われる農村は奥が深い、魅力がいっぱい宝の山。アフターコロナは在宅勤務やオンラインに向かうだろう。

今は田舎でも通信環境が整備されており、田舎でも仕事ができる。空き家や耕作放棄地を活用し、都会の密と地方の疎、この相反する課題の解をコロナが教えてくれるようだ。それは都市から地方、農村へ民族の大移動による国土の均衡ある発展を図ることである。農村から都市へ、都市から農村へ、振り子の原理が働く。

コロナ禍による社会的変化と生活変化

瀬戸田　誠　（平成元年経済学部卒）

コロナ禍がここまで長引くとは、考えなかった。インフルエンザの流行と違い、ワクチンの開発、治療薬の開発が出来ていないウイルスに人間がここまで翻弄されることに驚きさえ感じる。

いずれにしてもコロナの発生により、生活パターンは一変した。当にすさまじい社会変化が起きた。働き方の変化（在宅勤務、三密回避の順守、営業時間短縮、交通機関の時間短縮や路線の廃止、休止、時差出勤の拡大オンライン会議の普及)、学校教育現場の変化（オンライン授業、試験)、高齢者の引きこもり拡大（孤独死増大）様々な社会の分断が加速した。これまで、絆の構築に重ねた努力が一瞬にして分断されてしまった。

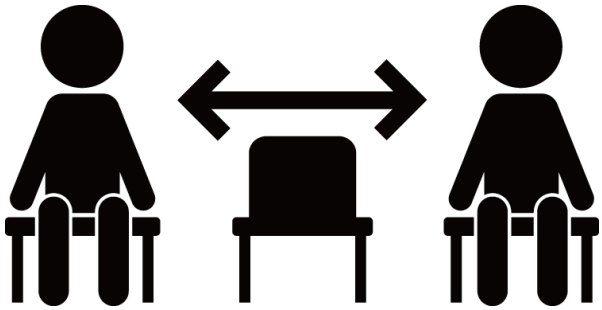
従来の働き方、生活パターンが全くと言って良い位変化した。【風吹けば桶屋が儲かる】という諺があるが、この諺はコロナ禍現象にもピッタリ当てはまるから驚きである。

不況の嵐が吹きまくっているような気がするが、企業分野で大きな格差が生まれている。バブル期の株価に到達。食品スーパーや冷凍食品メーカーの売り上げ好調、アマゾンを始めとする通販業界の拡大、情報機器の急速な普及。卒業式や入学式、入社式の廃止に伴う衣服業界の凋落。また、生活の年中行事だった年賀行事、お祭り行事の中止、町内会の行事の中止、冠婚葬祭の延期や縮小（家族葬の普及）等々大きな変化が起きている。

業界地図がまさに塗り替えられようとしている中、私たちも手を拱いてばかりいられない。今の状態が、当たり前だと考え対処する行動が求められている。丁度良い機会である、ちょっと気を付けて手洗いの励行、マスクの着用、夜遊びの加減、働き方の考え変更、企業も個々人もリセットしてスタートすれば良い。

近々にワクチンも普及、治療薬も開発使用されると思うが、時代に合った生活習慣を身に着ければ、厳しい将来とは考えにくい。本当に良い機会が与えられたと思うことにしたい。コロナに感謝！

［ ソーシャルディスタンス ］



[ソーシャルディスタンス]とは、日本語では「社会的距離」を意味します。

知性とは何か

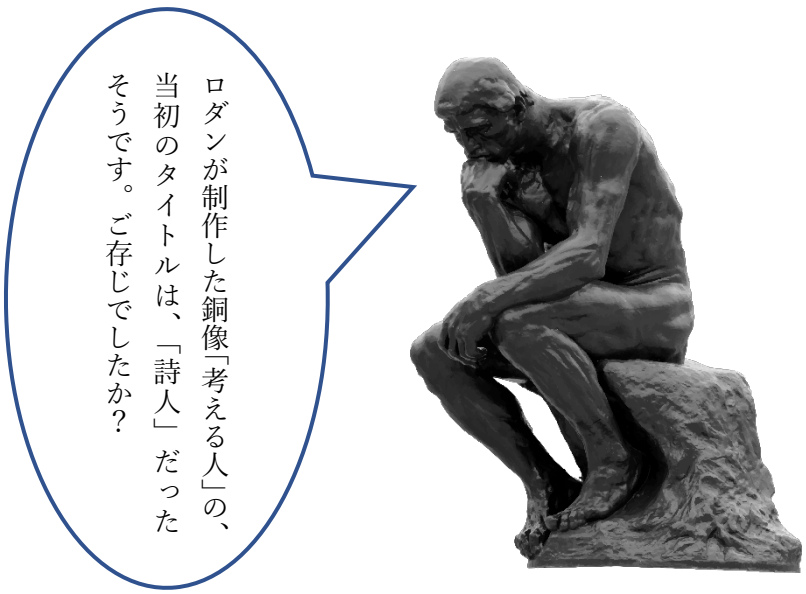
楢原宏明（平成 28 年文学部卒）

大学入試の共通テストが終わった。私が塾で担当している国語は、あれこれとこねくり回しておきながら、蓋を開けてみるとセンター試験とそれほど変わっていないという印象を受けた。新しい時代に即応した知性として、知識よりも思考力を問う問題にシフトさせたいという意図もあるようだが、果たしてその思考力の内実は如何様なものであろうか。多量・複数の資料を受験生に与え、正解を導き出させる情報処理能力が多く問われているようだ。これはある意味、情報社会に生きる現代人に必要な能力であるには間違いないが、大学入試で測るべき内容として適切だろうか。どうも軽佻浮薄な世相を反映しているようにも思える。骨のある文章をじっくりと読み解くことも思考力ではないか。

身も蓋も無い話だが、今は「お金を持っている人が、頭がいい」という風潮が無いだろうか。新しい一万円札の顔が近代日本資本主義の父と言われる渋沢栄一に決まったのは一つの表れとも取れる。そのことに対して良いとか好ましくないとかいう価値判断はここでは避ける。確かに、財を築くには知性やその他の才能も必要である。とは言え、現代社会において多くの場合、富は受け継がれるものだ。

資産だけではなく環境やマインド、人間関係等も、親や家系に因る部分が大きい。カードゲームのように初期条件がものを言うのである。時代は、格差社会から格差が固定された階級社会に移行していき、生きる条件や大学受験もフェアではない方向に進んでいる。しかしながら、人は牡丹でなければ紫陽花でもない。自ら道を切り拓く自由意志が与えられている。コロナ禍の今において、それを商機と捉える者もいる。

さて、この時代の知性とは何であろうか。



仏教の教え

迫田　勲　（昭和 43 年法学部卒）

私が地区のお寺（浄土真宗）の門徒総代をしていることや、家内が浄土真宗の門徒推進員をしていることから、2 人共住職の法話（お聴聞）を聞く機会が多い。又、歳をとったせいか仏教の深遠な哲理に魅かれ、仏教書を好んで読んでいる。宗教というと、人の弱みつけ込み騙して金品を取り上げる悪い宗教（宗教の名を語り）が時々話題になることから敬遠されることがある。憲法が保障する信教の自由で他宗教を信ずる人もおられるでしょうし、無宗教（宗教を信じれない）の方もおられると思うが、仏教は日本に伝来して 1500 年近い歴史があり、日本人の心に文化として根づいている。

仏教は私達人間の苦悩の多い人生の指針（闇夜の光）になり、安らぎ与える、と思う。自分を移す鏡でもある。宇宙に通じる深遠な哲理、とても私のような凡人には容易に理解できないし、それを語る能力もないが、法話を聴き、本を読んだ中からその一端を少し引用し（受け売り）ご紹介したい。

仏教とは　～ その起源と歴史 ～

仏教とは、約 2500 年前、釈迦が悟りを開いて仏陀になられたことに始まり、仏（釈尊）の説かれた教えであると共に仏になる教えと言われております。

釈尊は生まれて直ぐ 7 歩歩き、右手を挙げ、天上天下唯我独尊（宇宙で自分より尊いものはいない）と言われたという)、生後間もなく母親を失い人間の命の尊さやこの世の儚さ（無常）を身に染みて感じ、やがて国王（カピラ国）になる身であったが全て捨て 29 歳で城を後にして山で修行、35 歳の時「限りなく素直な心になること」「そしてその素直な心を意識しないで行動すること」、で執着をすべて断ち切ることができる、と悟りを開いたと云われる。

「自分」に拘り、「我」に執着する、この我執を断ち切ること、それが素直になること。その教えはインドから中国、朝鮮（百済）を経て、6 世紀日本に伝えられ、その過程で様々な部派や学派が生まれたが、歴代の天皇の熱心さで広まり、最澄（天台宗)、空海（真言宗)、法然（浄土宗)、親鸞（浄土真宗)、道元（曹洞宗)、日蓮（日蓮宗）などの高僧が現れ、庶民に広がり仏教は日本に定着し、文化となった。

諸行無常と縁起

仏教の根本思想は「諸行無常」と「縁起」。

「諸行無常」は、この世界の全ての物事は一瞬も留まることなく変わり続けている（変化しないものはない）という真理。鴨長明は「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。淀みに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人とすみかと、またかくのごとし。(『方丈記』の冒頭部分)」と無常を詠っている。

訳：川の流れは絶えることはなく、それでいてそこを流れる水は、同じもとの水ではない。川のよどみに浮かぶ水の泡は、一方では消え、また一方ではできて、そのまま長くとどまっている例はない。世の中に生きている人とその人たちの住処もまた、ちょうどこの川の流れや水の泡のようなものである。

「縁起」とは、全ての物事は原因や条件が互いに関わり繋がっている、この世のあらゆる物事には必ず原因と結果がある。物事がそれだけで存在することは無い、ということ。原因があるからすべての現象は存在する、ということである。日常会話で、縁起が良い、縁起が悪い、縁起をかつぐ、などに吉凶を占う言葉とは、仏教でいう縁起は意味が違う。

煩悩、それが苦悩の因

諸行無常はこの世の真理、それを人間は物事を固定（執着）して考え、自分に都合の良いように損か得か、好か嫌いかなど常に自己中心に物事を捉え、その結果、思うようにならないことで悩み苦しみ、争いを起こし、苦悩の人生を歩む。この真実に背いた自己中心性が「煩悩」と言われるもので、苦悩の因となっている。代表的な煩悩は、むさぼり、いかり、おろかさ、の 3 つでこれを 3 毒の煩悩という。もともと仏教では、人間本来の心は清らかで煩悩は後から生まれたものなので、修行により断つことが可能と考えられており、親鸞聖人は 9 歳の時から比叡山で 20 年間煩悩を断ち切る修業されたが、自力では断ち切れない煩悩の深さを自覚され、下山した。そこで法然聖人に出逢い 100 日間毎日通い、煩悩は後からついたものではなく、生まれつき持っていたものと教わり、悩み苦しむ全てのものをそのまま救おうと働き続ける阿弥陀如来の救いの働き（ご本願）に出逢われた。これが浄土宗。後に浄土真宗の始まりと言われる。

我々凡人は 3 毒を断ち切ることはできないが、この仏さまのご本願のお心をお聴きし、少しでもその願いに沿う生き方をしなさい、それには、欲を少なくして足ることを知る「少欲知足」と他者に対して穏やかな顔と優しい言葉で接する「和顔愛語」である、と教える。

私（人間）の正体

ある法話の後、あるご婦人が「私は良くお聴聞をするので、腹が立たなくなりました」と半ば自慢げに講師に話した。するとその講師は「あなたは大嘘つきですね」と。すると、そのご婦人は真っ赤になって怒ったという。薄い皮の下の正体がこれ、私の真の姿。人間は我を知らず、我ほど知りがたいものはない、というお話。自分の顔は自分では見えない。他人か鏡に映るしか見えない。

私達人間は、お金や財産、肩書、地位、名誉、権力など手に入れることが最高の価値（喜びや幸せ）と思い、そのためには手段を選ばず、たとえ法を犯してでも、他人を騙してでも、蹴落してでも、姑息なことをしてでも手に入れよう、と自己中心的な生き方をする（これが私達人間の正体），仏様の鏡に映る姿は醜い、誠にお恥ずかしい身、これを懺悔という。そうした価値の追及の結果、勝ち組・負け組ができ、格差ができ、人を見る目が損か得か、上か下か、敵か味方か、好きか嫌いか、を瞬時に見分け、優越感、劣等感、比較、嫉妬、愚痴、ライバル意識、傲慢、本音と建て前、争いが生じる。そうした価値の追求の　結果はどうなるか、政治家の失脚を見ればよく分かる。多くの国民が見ているテレビの前で権威や名誉の象徴であるバッジをつけ、「申し訳ございませんでした」と深々と頭を下げる姿、又かと思いますが笑ってみてはおらません。これが自分の姿，正体ですから。

あなたは誰ですか、人間は我を知らず、我ほど知りがたいものはない

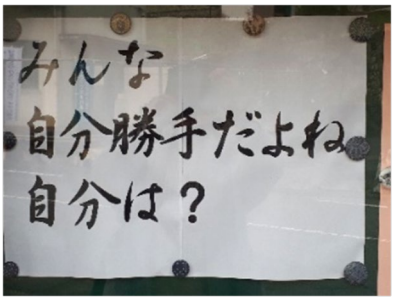
（ある住職のお話し本から引用）

アメリカのセラピストが次のようなグループワークによる心理療法をした。

20 代から 40 代の男女 30 人（皆初対面）が旅館に集まり、3 日間朝から晩まで、15 人組に分かれ、2 人 1 組で向き合って座り、お互い 1 人 5 分間「あなたは誰ですか」と聞く。次は反対の人が 5 分間「あなたは誰ですか」と聞く。これを 1 時間、次は人を入れ替え、又 1 人 5 分間、と繰り返す。1 時間経つと、人を入れ替える、会話が途絶えると、セラピストが注意する。これを密室の部屋で 3 日間。

最初は「迫田勲です、広島市からきました、仕事はこうです、趣味はこうです・・・」が、3 日間も「あなたは誰ですか」と問われても自分が何者であるか分からなくなる。こうして心の奥にあるものを外に出して行くのがこのワークショップの目的。

自分の肩書などは、饅頭の薄い皮のようなもの、中身は真っ黒な闇、一番近い自分が分からない。人間は、自分を一番知っているようで、本当は知らない、これが私である。



自分のものは何一つない、全て賜もの

この世の全て自然や社会、先祖、の賜わりもの、空気や水、太陽エネルギー、食べ物も、この身も、土地も、知識や言葉、文化も。ある計算によると、1 人一生の内、牛（肉）9 頭半、鶏１６２２羽、魚（さんま）17200 匹、食べる計算になるとか。これだけ多くのモノを戴いている。仏法はそれを全て俺のもの、というラベルを張りつける愚かさを教える。俺のものという所有は、賜わりものの流れを断つ働きになる。食べたもの（残りのカス）まで俺のもとして持ち続ければ、どうなる？また水は流れないと腐敗する。全ていただきモノ、自分のモノではない、と教える。

共命鳥（ぐみょうちょう）の教え

ヒマラヤ山脈の奥深い地に 1 つの胴体に 2 つの頭を持つ、1 匹の美しい鳥がいるという。この鳥は美しさを巡り、この世で私が一番美しい、いや私だ、と絶えず言い争い喧嘩している。

ある日、一方が相手に毒を飲ませる。すると相手はグターとなり死ぬ、これで私が一番になったと喜ぶのも束の間、その内毒が全身に回り、自分も死ぬ。人は皆繋がっている。相手を苦しめれば、自分に跳ね返ってくる。核兵機を使用し相手国を攻撃すれば、生き残った者から憎しみ、恨みを買い、怨念となり、倍返しされる。怨念の連鎖が続く。更に放射能は自国にも飛んでくる。こうして地球は生き物も住めない死の星となる。戦争に勝ち負けはない。仏教（仏説阿弥陀経）は共命鳥に例え、喧嘩、戦争の愚、人類共生、平和の尊さを説く仏さまが私達人間のことを鳥に例え、教えている。

ヤマアラシの教え

身体にトゲ針を持つ二匹のヤマアラシが、とても寒い日、お互い温めようと身を寄せあった。ところが、近すぎて互いのトゲが相手の身体を傷つけた、そこで、今度は離れてみたところ、寒くて凍えた。男女も人間関係なども、近すぎると傷がつきやすくなり又煩わしくなる、離れ過ぎると淋しい、疎遠になる。つまり、人間関係は程よい間(ま)、距離を保つことが大事、と、仏教は人との付き合いの心得をこのヤマアラシに例えて教える。学者はこれを「ヤマアラシジレンマ」と名付け、人間関係は近すぎると支配的になって相手の立場が見えなくなり、逆に離れすぎると情が薄れて心が通わなくなると言う。

如何に生きるか

「人生は長いようで短い」が、80 歳を過ぎた私の実感。特に 60 歳を過ぎたころからが、「あっと」という間であったように思う。人の一生は、断ち切れない「煩悩」や「生老病死」「無常」に「愛別離苦」(最愛の人に別れなければならない苦しみ)、「怨憎会苦」(自分が怨んだり憎んだりしている人とも会わなければならない苦しみ）など、生きていくということは、四苦八苦の人生を歩まなければならない。それでも耐えて生きねばならない。この世は忍土と言われる。

そして最後は「死」。人は死に直面した時（医学でも治らない）頼るところは宗教（仏様におすがりする）しかない、と住職から聞いたことがある。「我や先、人や先、今日とも知れず、明日とも知れず」(白骨の御文章)、死は必ず、絶対、万人平等に訪れる。仏教と言えば葬式仏教と言われるように、暗いイメージがあり、普段は縁のないものと思われるが、今をどう生きるか、人生そのものである。自分は何の為に生まれてきたのか、如何に生きるか、自分はなにものか、命の繋がり・大切さ、争いのない世の中、など哲学的命題使命を気付かせる。宗教は目に見えないし科学的に実証できない、正解は分からない、信ずることが答え。

永六輔は、「生きていることは誰かに借りをつくること、生きていくことはその借りを返してゆくこと」と言っている。多くの人に出逢い、多くのモノを戴いて、世話になり、塾で学び、支えられ、生かされて今の私がある。尊大な言い方かも知れないが、少しでも借りを返してゆくことが、残された私の人生、と思う。今朝はこれからの人生の出発の朝、今までの人生を一変する出来事と出会いが待っているかも知れない。そして、今日 1 日は人生の最後の日になるかも知れない。一期一会で、今生きていることに感謝して、1 日 1 日を大切に、出来るだけ「小欲知足」「和顔愛語」「他利」で、そして健康に気をつけ、天寿を全うしたいと思う。私は、人はあの世（お浄土）からこの世（忍土）に、旅に来ている、と思う。この世で多くの人に出会い、色々な所を見て廻り、美味しいものを食べ、様々に体験し、修行し、旅が終わったら、あの世（本国）に帰る。まだ旅を続けたいものである。

（特別寄稿）　第二の故郷、広島を想う

明石旭弘（憲彦）（昭和 34 年経済学部卒）
（全国通信三田会顧問、岡山通信三田会名誉会長）

一昨年来、広島市西区に住む甥（慶大商卒）の妻の病気葬儀や次弟の長期療養葬儀などで、足繁く広島へ通い、明年の 3 回忌を残すものの、昨年末の 1 周忌で一応区切りがついた。塾生時代、科目試験で、京都・大阪・東京など各地に通ったが、広島が最も多く、その来る車中で、生涯の親友 Y 君に出逢い、夏 4 年間、同室で寝食を共にしたことも良い思い出となった。

小生本年卒寿（90 歳）を迎えることになるが、近年腰痛で苦しみ十分な活動が出来ず、心身気力の衰えを痛感している。幼いころから多くの夢を抱きながら、何 1 つ大成することなく、腑甲斐ない人生を過ごして来たことを悔やみながら、若い頃の思い出に耽っている。

小生小学校を呉二河、四国松山新王、広島三次、岡山高梁と西大寺と 5 回転校しているが、最も楽しかったのは呉二河小時代。4～5 歳の頃、父母と次弟に 4 人で岡山から呉二河道ノ 2 軒長屋に引っ越し貧しいながらも幸せな生活を始めた。直ぐ近くの子供数人と仲良くなり、パッチン(めんこ)、チャンバラ、ビー玉、缶蹴り等で遊んでいた。家の前の豪邸の門前、丘の上の呉一中（現三津田高）の校庭、牡蠣船のある二河川の河原等が遊び場所。ある日、この二河川で溺れて流され、中洲に辿り着き、泣きながら帰宅、母に厳しく叱られた。母のメモをもって、よく肉屋や八百屋へ買いものに行っていた。殆ど毎日交番の前を走り抜け、税務署の父へ弁当を届けていた。ある日、家の前の落とし物を母の命でその交番に届けに行った。警官は「幼いのに感心」と褒めてその小銭をくれた。以来、その交番も、　前を走ることなく税務署へ通った。日曜日に時々弟を乳母車に乗せて父母と町へ。その時レストランで食事をするのが至福のひとときであった。ある日その町で迷子になり、泣きながら走って帰ったが、　中に入れず門前に座っていると、隣家の若い女性が声をかけてくれ、同家に入って休んだことも懐かしい思い出。

昭和 13 年二河小へ入学、呉一中近くの U 君が毎朝迎えに来てくれ共に通学、U 君とは生涯の親友となった。私は、成績は上位（2 年生の時副級長）なるも弱小で相撲・徒競走・鉄棒等は全てビリ駄目であった。U 君は心身強健で成績は常にトップ、級長としてクラスのリーダーであり人気もあった。担任の O 先生は全員から愛され尊敬されていた。クラスに朝鮮人 2 名あり、その 1 人の弁当が異臭、それを見た O 先生は自分の弁当を与えた。私がはしかに罹り高熱で苦しんでいる時、O 先生が見舞いに来てくれ大変嬉しかった。近くに同級生Ｆ・Ｋ・Ｋの 3 君があり、入学前より良く遊びに行っていた。Ｆの家は旅館で宿泊していた出征直前の青年が自殺。二河川河原で若い女姓裸体死体が発見される等、数件の事件があった。クラスの海軍将校（佐官級）の子女 3 人ほどあり、裕福で多くの本をもっていた。私は 2 冊のみ（羽柴秀吉・山中鹿之助）で度々彼女達を訪ね、本を見せて貰ったり、借りたりしていた。「のらくろ」の漫画が印象的。母と銭湯に行く時はいつも女風呂に入り、女子同級生に囲まれて談笑、楽しかった。当時支那事変で激化，戦地の兵隊と慰問の手紙のやり取りや母の千人針等、中国、朝鮮、満州への関心を深めていた。私は幼い頃から好き嫌いが多く、食欲不振で時々弁当を食べず売店でパンを買って食べていた。腹痛に苦しむことが多く、肝油をエズきながら飲まされていた。昭和 11

年妹が、昭和 13 年三弟が生まれ,私は嬉しかったが母は大変であった。更に三次で四弟、次妹が生まれ食料事情の悪化もあり、父母は疲労困憊の上発病、早く亡くなることになる。呉時代は、まだ統制が緩やかで、ポン菓子機・流し焼き・紙芝居や、田舎から野菜・果物を満載した荷車がやってきた。

昭和 16 年の秋、父の転勤で四国松山に転居することになる。数名の友と文通の約束をして、続けていたが、何時の頃か途絶え、U のみ彼が没するまで続けた。冥福を祈っている。

下蒲刈町でのミカン狩り、瀬戸内遊航の西日（耕三寺）参拝観光福塩線、芸備線の旅、何度も尋ねた福山城、備後吉備津神社、宮島（厳島神社）、全国や中四国通信三田会や交流会での呉大和ミュージアム、鞆の浦歴史探訪、尾道寺社巡り、町内会での神楽観光等楽しかった思い出が尽きない。これからも健康である限り広島の各地を訪ねてみたい。かつて、祖父の家族ら 6 人が呉、祖父の弟と次男 2 人共（広島税務署勤務）が、また、父の従弟（中国電力勤務）が六島市に住んでいた。祖母の従弟が尾道市で産婦人科医院（赤松）経営など広島には縁が多かった。

～　広島の今　～

（R3.3.10 現在）

[宮島の大鳥居]

令和元年 6 月 17 日から大規模な保存修理工事中。まだ数年はかかる見込み。

[原爆ドーム]

令和 2 年 9 月から保存工事中。工事は、足場の撤去を含め、今年 3 月末までに終える予定。

交通機関も、ダイヤ改正や減便があります。イベントも、(宿泊)施設も、状況によっては変更(中止・休業)があります。最新情報は、随時ご確認ください。

編集後記

当たり前と思っていたことが実はそうではない、
あることが稀である（有難い）と思う。
何気なく過ごしている日常生活に
突然襲う怪我や病気、自然災害、交通事故・・・
今無事に過し生きていることがどんなに
素晴らしいことか、有難いことか、感謝したい。
有難いこと、をよくかみしめたい。
「ありがとう」は仏教から言葉と聞く。

右の写真は自然の傑作、弟が LINE で
送っていたもの。しばし、眼に保養を！
（迫田）

平和来（三田キャンパス）

福澤諭吉先生ご夫妻のお墓（東京・善福寺）

慶應義塾大学　広島通信三田会報　みやじま　第６０号

発行　　広島通信三田会　会長　迫田　勲
編集　　広島通信三田会　幹事（広報担当）　小林節子
〒731-1171　広島市安佐北区安佐町小河内１４４８番地
Ｅ－mail　i-sakoda@h9.dion.ne.jp
発行　　２０２１年　３月２５日
会の HP　https://hiro-tu-mitakai.net